冬、白一色の世界のなかで。

噴煙を上げる雪の旭岳
（大雪山国立公園）(1)

雲仙妙見岳の霧氷（雲仙天草国立公園）(3)

アオモリトドマツの霧氷
（十和田八幡平国立公園）(2)

冬の使者オオワシ（知床国立公園）(4)

押し寄せる流氷、国後島を望む（知床国立公園）(5)

COLUMN
季節を告げる渡り鳥

日本人は古くから、渡り鳥の渡来によって季節の訪れを敏感に感じとってきました。晩秋になるとマガモやハクチョウが北方から渡ってきて日本で冬を過ごし、春になると北に帰っていきます。ツバメやサシバなどのような、初夏に南から渡ってきて夏の日本で子育てをする鳥たちやシギ・チドリ類のように春と秋、渡りの途中で日本を通過する鳥たちもあります。国立公園はこうした渡り鳥など野生動物の生息地としても大変重要な役割を担っています。

屈斜路湖上のオオハクチョウ
（阿寒国立公園）

（写真：森田敏隆）

（写真：1,3 5）森田敏隆　2）西島達也　4）安部照美）